

専門雑誌・書籍掲載

杉原健太郎(理学療法士)
通所リハにおけるADL・IADLの維持・改善の工夫
Rehaje Vol.6, QOLサービス, 2018.10
杉原健太郎(理学療法士)
通所リハにおける参加・本人の生きがいに対する対応の工夫
Rehaje Vol.7, QOLサービス, 2019.1

外部講演

角田賢(医師・病院長)
現在・過去・未来。神話の故郷山陰で「これから」を考える
竹内茂伸(言語聴覚士・副院長)
主催団体シンポジウム1 リハ病院と歯科医師会による医科歯科連携の取り組み、成果、展望
リハビリテーション・ケア合同研究会 米子2018、日本リハビリテーション病院・施設協会・回復期リハビリテーション病棟協会・全国デイ・ケア協会・日本訪問リハビリテーション協会・全国地域リハビリテーション研究会・全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会主催、2018.10.3-4、米子市
松橋菜実子(言語聴覚士)
在宅及び地域社会における失語症者とのコミュニケーションについて
「失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修」伝達講習、山陰言語聴覚士協会主催、2018.10.14、米子市
今田健(理学療法士・リハビリ技術部長)、原大樹(理学療法士・リハビリ技術部主任)、木村誉、長崎正義(理学療法士)
腰痛の2大要因とその予防
鳥取県介護労働安定センター主催、2018.10.18、米子市
角田賢(医師・病院長)
回復期リハビリテーション病棟総論
第114回全職種研修会、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2018.10.27、東京都
花本知米(社会福祉士)
所属病院の役割や取り組み紹介
平成30年度第1回保健医療委員会研修会、鳥取県社会福祉士会主催、2018.10.27、米子市
今田健(理学療法士・リハビリ技術部長)、遠藤美紀、烏谷香蓮、木村誉(理学療法士)
組織で取り組む腰痛予防は、再発率と欠勤日数を減少させる
鳥取県介護労働安定センター主催、2018.11.9、米子市
松橋菜実子(言語聴覚士)
口腔ケアと誤嚥予防について
米子市地域リハビリテーション活動支援事業、米子市主催、2018.11.12、米子市
山崎昭子(看護師・副院長)
近未来の鳥取の看護を語る
鳥取県看護協会創立70周年記念、鳥取県看護協会主催、2018.11.17、米子市
角田賢(医師・病院長)
地域包括ケア時代の食支援
平成30年度経口摂取支援研修会、鳥根県経口摂取支援協議会主催、2018.11.18、松江市
松橋菜実子(言語聴覚士)
口腔ケアと誤嚥予防について
米子市地域リハビリテーション活動支援事業、米子市主催、2018.11.30、米子市
北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部長)
中重度認知症の方の生活リハビリテーション
メдикаサポート主催、2018.12.10、米子市
北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部長)
中重度認知症の方の生活リハビリテーション
メдикаサポート主催、2018.12.18、米子市
今田健(理学療法士・リハビリ技術部長)
新人から管理者までの教育体制の整備
日本理学療法士協会 職域別管理者中央研修会、日本理学療法士協会主任、2019.1.19、東京都
今田健(理学療法士・リハビリ技術部長)
理学療法士に求められるハンスオファプローチ、回復期におけるハンスオファプローチ
第50回近畿理学療法学会 日本理学療法士協会近畿ブロック主催、2019.1.20、奈良県
坂根嘉奈子(看護師・看護部主任)、片寄加代子、福田由美子(看護師)
回復期リハビリテーションでの退院支援・事例検討会
退院支援コース研修会、鳥取大学医学部附属病院主催、2019.2.7、米子市
今田健(理学療法士・リハビリ技術部長)、足立晃一、上村順一、足立睦未、木村誉、烏谷香蓮(理学療法士)
座位および座位関連動作を再考する
メдикаサポート主催、2019.2.18、米子市
今田健(理学療法士・リハビリ技術部長)、上村順一、遠藤美紀、木村誉、板持流寛(理学療法士)
座位から車椅子姿勢や動作・調整を考える
メдикаサポート主催、2019.2.19、米子市
今田健(理学療法士・リハビリ技術部長)
質向上への取り組み
神坂綾(社会福祉士)
質向上への取り組み
平成30年度第2回保健医療委員会研修会、鳥取県社会福祉士会主催、2019.3.2、米子市
長崎正義(理学療法士)
骨や関節、筋肉など運動器の衰えが原因で起こるロコモティブシンドローム
第40回アクティブシニア健康教室、2019.3.15、米子市

学会発表

上村順一(理学療法士)
在宅での終末期の療養を選択した本人に告知のないがん症例への訪問理学療法介入の一例
増原俊幸(理学療法士)
地域で行うアクティブシニア健康教室の取り組みと参加者の興味・関心
遠藤美紀(理学療法士)
生活空間と歩行能力の経時的変化に着目した1症例に対する退院後24か月間の訪問調査
永岡直充(理学療法士)
脳血管疾患を持つ患者の呼吸機能障害と当院での訓練実施による変化
長崎正義(理学療法士)
訪問リハ開始までのケアマネジャーとの連携が退院後の生活機能に及ぼす影響
長崎正義(理学療法士)
日常生活の活動量をハンスオフの視点で提案、指導し、活動量計を用いて、検討した一例
野坂進之介(理学療法士)
認知機能障害が改善した者、改善しなかった者におけるTimed Up and Go testの入退院時変化の比較

烏谷香蓮(理学療法士)
理学療法時間(外部から来院した患者家族らの見学回数は、在宅復帰率に関連しているか)
烏谷香蓮(理学療法士)
理学療法時間における患者家族らの人数調査より、休日を利用した家族指導を行う取り組みを検討する
小山雅之(作業療法士・リハビリ技術部主任)
実車評価において半側空間無視が顕在化した若年被災出血症例
平野正樹(作業療法士)
排泄動作の自立に向けた補高台の作成 一既製品の福祉用具では対応が困難な事例を通して一
原田あゆ美(作業療法士)
低栄養患者に対し、食事に焦点を当てた関わりにて本人の意識に変化が見られた症例
村上英里(作業療法士)
機械浴脱却プロジェクト 一重要項目の選定について一
池内茜(作業療法士)
食事動作を通して自己効力感が向上した一症例
山本未来(作業療法士)
疼痛により積極的な麻痺手の使用が困難となった脳梗塞患者への介入
吉田倫子(作業療法士)
当院における自動車運転再開に向けた評価体制の見直しに関する一考察
村上英里(作業療法士)
機械浴脱却プロジェクト 一機械浴脱却基準の運用と阻害因子一
山内亜美(言語聴覚士)
回復期リハビリ病棟における舌圧と摂食嚥下機能、FIMとの関連性に関する検討 一第1報一
伊藤美晴(言語聴覚士)
自宅復帰に向けた支援に、環境因子である家族(夫)の考えや心理へ多くの配慮を要した失語症例
松橋菜実子(言語聴覚士)
一般社団法人山陰言語聴覚士協会における失語症者向け意思疎通支援事業の取り組み
小谷優平(言語聴覚士)
訪問言語聴覚療法におけるモバイル端末の活用 一一般性自己効力感(GSES)の低かった2症例の経験一
木佐高志(言語聴覚士)
訪問STで外食支援を行なったALSの一例 一進行性疾患患者の自立支援に向けた言語聴覚士の役割一
佐藤勝之(言語聴覚士)
夫の入院で独居になった失語症者に対する訪問リハビリの一例
片寄加代子(看護師)
回復期リハビリテーション病院と急性期病院との看護師間の連携 一研修実施の効果一
福田由美子(看護師)
退院時と退院後のFIMの変化について 一排泄に関するFIMに注目して一
原口大(介護福祉士)
おむつはずしのある患者に対するの自宅退院支援 一おむつフィッターとしての関わり一
原田真希(介護福祉士)
認知症患者に対する夕方の集団レクリエーション活動について
田熊みゆき(介護福祉士)
おむつ説明会による効果
神坂綾(社会福祉士)
当院における鳥取県西部圏域脳卒中『6ヶ月後維持期状況連絡票』の運用経過報告(第2報)
～Barthel Index得点変化に着目して～
リハビリテーション・ケア合同研究会 米子2018、2018.10.3-4、米子市
池内茜(作業療法士)
早期にPSBを導入したことで食事動作に改善を認めた右片麻痺と右肩関節脱臼を併発した一症例
山本未来(作業療法士)
別々の医療機関に入院した夫婦の情報共有し、サ高住で再び同居生活を目指した事例
第15回鳥取県作業療法学会、2018.11.25、米子市
比田亜希(作業療法士)
視線分析により注意の抑制障害が原因と考えられた系列的操作障害を呈した左頭頂皮質下出血例
村上英里(作業療法士)
半側空間無視を伴う着衣障害患者の徴候と改善経過を織った一例
第42回日本高次脳機能障害学会、2018.12.6-7、兵庫県
遠藤美紀(理学療法士)
退院後の閉じこもりを危惧していた1症例に対する生活空間と歩行能力に着目した24か月間の訪問調査
烏谷香蓮(理学療法士)
回復期リハビリテーション病棟における患者家族らの理学療法見学回数と在宅復帰率との関連
第5回日本地域理学療法学会学術大会、2018.12.8-9、神奈川県
井後雅之(医師・名誉院長)
回復期リハにおける脳血管系疾患臨床層型分類の有用性の再検討
第42回日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会、2018.12.9、松江市
神坂綾(社会福祉士)
当院における脳卒中『6ヶ月後維持期状況連絡票』の運用経過報告 一Barthel Index得点変化に着目して～
第47回中国四国リハビリテーション医学研究会、2018.12.9、松江市
永岡直充(理学療法士)
呼吸機能障害を伴う脳血管疾患を持つ患者の最大呼気流速と基本動作、日常生活動作の変化
松原岳洋(理学療法士)
転倒患者における危険行動の発生日と転倒発生の関連性
烏谷香蓮(理学療法士)
当院における患者家族らによる理学療法見学回数と、FIM利得および在宅復帰率の関連
吉田倫子(作業療法士)
当院における自動車運転再開に向けた評価体制の見直しに関する一考察
村上英里(作業療法士)
機械浴脱却プロジェクト 一機械浴脱却基準の運用と阻害因子一
岩田久義(言語聴覚士・リハビリ技術部主任)
新規採用歯科衛生士への教育体制
小谷優平(言語聴覚士)
中長期的な干渉電流型低周波治療により嚥下治療効果を得た廃用症候群の一例
回復期リハビリテーション病棟協会 第33回 研究大会 in 舞浜・千葉、2019.2.21-22、千葉県

※氏名、職員の肩書は掲載、開催時点のものであり現在は変更があります。

診療方針：わたしたちは

回復期リハビリテーション医療と地域連携を通して患者さんの社会参加を支援します。

R 錦海リハビリテーション病院
〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5
TEL 0859-34-2300【代表】
FAX 0859-34-2303



KINKAI REHABILITATION HOSPITAL

NEWS



錦海リハビリテーション病院ニュース

発行：社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院

TEL：0859-34-2300【代表】
E-mail：kinkai-hp@kohoeh.jp
URL：https://www.kinkai-rehab.jp

2019 VOL.09



SPECIAL 最前線 1

錦海リハビリテーション病院 One for all, all for one

「一つの目的」を達成するために

2019年はラグビーワールドカップが日本で開催されるという記念すべき年です。4年前のイギリス大会で史上最大の番狂わせと言われた南アフリカ戦勝利は、思い出すと今でも胸が熱くなります。試合終了直前、最後のワンプレーで得たペナルティキックのチャンスで同点ゴールではなく、敢えて勝つために選択したスクラムとそこから15人の選手全員での7次に渡る連続攻撃で取りきった逆転トライでした。(見たことのない方はぜひYoutubeなどの動画サイトで)

One for all, all for oneという言葉、一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。「ひとりみんなのために、みんなはひとりのために」と訳されることの多いこのフレーズですが、後半はちよつと違っています。all for oneのoneは「ひとり」ではなく「一つの目的」、ラグビーでは「トライ」あるいは「チームの勝利」を意味するのだそうです。

ラグビーは1チーム15人という大人数の球技です。太った人、背の高い人、小さい人、足の速い人、それぞれが自分の特性を活かしたポジションでそれぞれの役割を果たさなければその「一つの目的」を達成することは困難です。しかしその試合の中ではその状況に応じて、太った大きな選手もトライを取るためにボックスのように走りますし、小さなボックスの選手もフォワードの巨漢ばかりの密集に突っ込みます。一人ひとりがみんなのために戦うことが求められます。



患者さんの入院初日
イニシャルカンファレンス(多職種カンファレンス)の様子



平成31年4月1日より「チーム錦海リハ」に新しい仲間が加わりました。

リハビリテーション医療の現場でも、医師、看護師、介護福祉士、療法士、薬剤師、社会福祉士、管理栄養士、歯科衛生士等、数多くの専門職種が働いています。それぞれ重要な職種で、その誰が欠けても我々の「一つの目的」である「患者さんが住み慣れた場所でその人らしい生活を送られるようにする」という目標を達成することは困難です。そしてさらにその専門職種としての職務を果たすだけでなく、状況に応じて臨機応変にその職域の壁を超えてカバーし合うことは、我々の目指す「一つの目的」を達成する上で欠かせません。これが理想的なリハビリテーションチーム医療の形ではないかと考えています。まさに「One for all, all for one」です。

あの日のブレイブロッサムズ(ラグビー日本代表チームの愛称)のようなチームを作り上げたいと思う今日この頃です。

社会福祉法人 こうほうえん
錦海リハビリテーション病院
病院長 角田 賢

錦海リハビリテーション病院 リハビリテーション関連の職員数(回復期リハビリテーション病棟)

●医師:5名(うちリハビリテーション医学会 専門医2名・リハビリテーション医学会 認定臨床医3名) ●看護師:26名 ●介護士:18名(うち 介護福祉士16名) ●言語聴覚士:17名 ●理学療法士:17名 ●作業療法士:22名 ●社会福祉士:4名 ●歯科衛生士:1名 ●薬剤師:2名 ●管理栄養士:1名

平成31年4月1日現在(実人数)

SPECIAL 最前線 2

日本リハビリテーション病院・施設協会主催 『地域リハ塾』参加報告

リハビリテーション(以下、リハ)に携わる私たち職員は、患者さんが、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活を送って頂くため、的確に援助できるよう研鑽を積んでいます。患者さんが地域でより良い生活を送って頂くためには、私たちは患者さんの暮らしぶりや地域の特性について理解を深め、病院や施設といった枠組みを超えて、広く地域の中で、リハの知恵や技術といった専門性を発揮することが求められます。例えば体力や判断力が低下したため、外出をためらっている人に対し、地域の自治会や地域包括支援センターなどと協力しながら、外出を容易にするサポート体制を構築することが必要です。



地域リハ塾でのグループワークの様子

今回私は、昨年10月より、日本リハビリテーション病院・施設協会が主催する「地域リハ塾(全6回)」に出向かせて頂きました。これは私たちが、地域のあらゆる人々と資源と繋がりをしながらリハの専門性を発揮し、より積極的に地域を支えることを目指すため、同協会所属の病院・施設の職員を集めて互いに地域活動を学び合う、新しい取組です。今日の日本のリハ制度を作り上げた先生方にご講演頂き、講演内容を振り返りながら仲間と論を交わし、自身の地域活動を見直す機会を得ることが出来ました。これを期に積極的に地域へ出向き、専門性を活かす次第です。



斉藤正身会長(日本リハビリテーション病院・施設協会)からの修了証授与



全国から参加した地域リハ塾0期生の集合写真

理学療法士 杉原健太郎

SPECIAL 最前線 3

診療部 放射線技術室の紹介 診療放射線技師のお仕事

回復期リハビリテーション病棟での診療放射線技師の仕事をご紹介します。

放射線技術室では診療放射線技師1名で診断に必要な画像情報の提供のため、放射線医療機器および医療用放射線に関する安全管理を行っています。



一般撮影では胸部・腹部・骨・関節等を、CT検査では頭部を中心に撮影しています。その他、医師や言語聴覚士等、多職種と協力しながら嚥下造影検査をおこないます。嚥下造影検査では患者さんに造影剤を混ぜた嚥下食等を食べていただき、飲み込みの様子をX線透視下にて観察・評価します。飲み込みの様子を

各職種が専門的に評価し、各患者さんに適した食事の形態、食べ方(嚥下、横向き嚥下等)、姿勢の調整、また今後のリハビリテーション方針を決定し、より安全な食事の摂取へとつなげていきます。

より質の高い業務を実践するため各種認定資格を目指しています。

医療情報技師、医用画像情報精度管理士、放射線管理士の認定資格を取得する等、自己研鑽にも努めています。

2019年3月に新しいCT装置を導入しました。

この度、16列マルチスライスCT装置(キャノンメディカルシステムズ社:Aquilion™ Lightning)を導入しました。以前に稼働していたCT装置と比べ、より高繊細な画像を得られるようになり診断精度の向上につながる事が期待できます。また、広い範囲を短時間かつ低い被ばく線量で撮影することが可能なため、検査時間の大幅な短縮等、患者さんへの負担が少なくなりました。



写真は16列マルチスライスCT装置(キャノンメディカルシステムズ社:Aquilion™ Lightning)

TOPICS 01

山陰初、当院作業療法部門が臨床実習指導施設制度の認定を受けました

この度作業療法部門におきましては、一般社団法人日本作業療法士協会が設けた臨床実習指導施設認定制度の認定を山陰の施設としては初めて取得しました。

近年、臨床実習において様々な問題(医療の高度化、患者の高齢化・重度化、平均在院日数の短縮等により、業務の多様化・複雑化)がある中、作業療法学生の実習指導に関する一定の知識と技術、指導実践を有する施設として認められたこととなります。

これからは学生にとっては勿論のこと、患者様はじめ地域の皆様には選ばれた施設であり続けるために、スタッフ一同研鑽を積んでいきたいと思っております。



作業療法部門職員。写真下段中央は北山朋宏(作業療法士)リハビリテーション技術部課長。

TOPICS 03

洋食の専門調理師による スペシャルメニューを提供しました

平成31年2月14日(木)昼食に、洋食の専門調理師が考案したスペシャルメニューを提供しました。

メニューはピラフ、鶏肉の野菜巻き、ぶりぶり海老のカクテルサラダ、ラタトゥイユ、スモークサーモンとカマンベールチーズ、南瓜のポターージュ、チョコレートムースです。これまでは和食で行ってききましたが、今回は開催日のパレンタインデーに合わせて洋食としました。患者さんより「おいしかった」「これでリハビリを頑張れる」などと、嬉しいご意見を多数いただきました。

今後も、食事を通じてリハビリを支え、また入院生活の楽しみのひとつとしていただけるよう取り組んで参ります。



洋食の専門調理師によるスペシャルメニュー。

TOPICS 02

オーストラリア ゴールドコースト研修報告

平成31年2月3日～9日、当院の理学療法士 長崎正義・作業療法士 村上英里がオーストラリアのゴールドコーストにあるImagine Educationで行われた法人の教育研修へ参加しました。

語学教育・介護施設(Ashmore Retreat Care/Paradise Lake)見学・ノーリフトポリシーの講習・演題発表を中心に豪国における介護・リハビリについて学びました。特に、ノーリフトポリシーに関しては、意見交流を行い、現場の改善に繋がる視点が広がりました。また、今回はホームステイにて、両国の家庭料理を食すことや拙いながらに英会話を楽しめたことも異文化交流として、大変よい機会となりました。



Imagine Educationの終了式での集合写真。

TOPICS 04

モク・オ・ケアヴェ・インターナショナル・ フラ・フェスティバル 世界大会へ出場しました

平成30年9月倉吉市で、フラダンス世界大会の日本予選であるモク・オ・ケアヴェ・インターナショナル・フラ・フェスティバル日本大会in鳥取が開催され、当院伊藤明子事務部係長が所属するフラダンスチーム「フラ・ハラウ・ピカケ・テルヌマ」が優勝し、平成31年2月21～23日に開催されたハワイ島での世界大会に出場しました。

伊藤係長からのコメント

子育てを終えた5年前に始めたフラダンスに夢中になり、今では私の生活になくてはならない、ちょっとしたビタミン剤になっています。大会前の練習などは、若き日の青春時代を思い出させる日々でした。ストレス社会といわれている中、夢中になれることに出会い仕事や日々の活力になっていることに心より感謝です。



大会開催地ハワイ島での集合写真。伊藤明子係長は後列左から3番目。